



「三州瓦」発展の足跡を
今に、そして未来に伝える。

“撮っておき” の たかはま

【第4回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

サロン赤窯「塩焼瓦窯」

現在、国内シェアの約7割を占めている三州瓦。昭和30年代、高度経済成長期の住宅需要増加に合わせて、三州瓦の製法・生産量は飛躍的な発展を遂げた。その当時の主力製品が「塩焼瓦」だ。焼成の最終段階で食塩を投入すると、小豆色をしたガラス状の皮膜となり、光沢を持った非常に丈夫な瓦に仕上がる。その色から「赤瓦」とも呼ばれている。

「鬼のみち」をかわら美術館方面に歩くと、レンガ製の角型煙突が目に入る。それが「サロン赤窯」内にある「塩焼瓦窯」だ。昭和40年代以降、陶器瓦（釉薬瓦）の生産量が増加するにつれ、塩焼瓦の生産量は急激に減少、窯自体も次々と姿を消した。間口約5m、奥行き約5.5m、高さ約2.5m、昔ながらの石炭焼き構造が残されている「塩焼瓦窯」は、日本の瓦製造の歴史を語るうえでの貴重な産業遺産として、市有形民俗文化財に指定されている。

「サロン赤窯」で瓦や高浜の魅力を伝えている「NPO法人あかおにどん」理事長の牧野芳也さんは、「写真撮影や絵を描くことが趣味、おしゃべりが好き、物事を丹念に調べることが得意など、さまざまな特技を持ったメンバー30人で活動している。市内外の来訪者から「昔はこうだった」といったエピソードを教わることも多く、人や新たな情報との出会いがとても楽しい。お茶を飲みながら世間話をするつもりで、気軽に立ち寄って欲しい。」と語る。

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 たかはま

編集・発行／高浜市役所地域政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2

TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110

<http://www.city.takahama.lg.jp/>

電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

表紙

2,000人が高浜のまちなかを駆け抜ける! ～第17回高浜シティマラソン

1月26日に開催された第17回高浜シティマラソン。市内外から集結した2,038人のランナーが、ジョギング、1.5km、3km、5km、10kmの各部門に分かれて、高浜のまちなかを駆け抜けました。

日ごろの練習成果を発揮しようと自己ベストタイムに挑んだ人、健康づくりや趣味の活動PRの一環として、家族や友人・仲間といっしょに走った人、おそろいの衣装を着用するなど楽しみながら走った人。まち一帯が多くの笑顔に包まれた1日となりました。



広報たかはまは植物油インキを使用しています。